

ニューズレター雪氷北信越

No. 11 平成2年1月22日

日本雪氷学会北信越支部発行

目次

講演会・学習会・見学会の報告とお知らせ／国際会議のお知らせ

見学会

新潟地区見学会のお知らせ

上越地区の雪氷研究施設を訪ねて

北信越地方の雪氷研究の拠点、農林水産省北陸農業試験場および建設省土木研究所新潟試験所を訪ねて、最近の研究の様子を見学したいと思います。北陸農試では特に積雪観測室、雪下作物、雪腐れ病の実験が、土木研究所では豊富な設備をはじめ降雪予測と野外雪崩実験などが見物となるでしょう。たくさんの会員の参加を期待します。

日時：平成2年2月2日（金） 全日（マイクロバスで見学します）
日程：10:30 JR長岡駅前発（大手口側噴水前集合10:20）
13:00 JR直江津駅前発
13:30～14:15 北陸農試見学
14:55～16:00 土木研究所見学
18:00 JR長岡駅前解散

※参加の仕方は長岡駅前もしくは直江津駅から

参加希望者は電話もしくはFAXで下記へご連絡下さい。

長岡技術科学大学 早川典生 TEL:0258-46600内線6117, FAX:0258-47-0019
(株)アルゴス 上石 勳 TEL:0255-72-3448, FAX:0255-72-9426

学習会

新潟地区第5回学習会のお知らせ

屋根雪処理技術の現状と考え方

積雪会（事務局：長岡技術科学大学内）の中に設立された雪処理技術調査委員会は、昭和59年2月より、雪処理に関する技術を調査し、これを科学的方法によって分類・系統化し、その結果を普及する活動を行ってきました。そのとりまとめとしての「雪処理技術調査研究報告」が平成元年10月に（財）日本積雪連合から発刊されました。この委員会の幹事として活躍された梅村先生から、この報告書の成果を屋根雪処理を中心としてご講演戴きます。

講 師： 梅村 晃由 長岡技術科学大学 教授
 日 時： 平成2年2月24日(土) 10:00～12:00
 場 所： 長岡工業高校 視聴覚教室
 長岡市幸町2丁目(長岡市役所隣) Tel. 0258-35-1970
 (長岡駅前から市役所経由宮内行バスで消防署前下車)
 なお、同じ場所で午後から積雪断面観測の講習会が開かれます。

問い合わせ先： 新潟大学災害研 小林俊一 (Tel. 025-262-7052)
 和泉 薫 (Tel. 025-262-7054)

講習会

平成1年度 新潟地区講習会のご案内

- [1] 講習題目：積雪の断面観測と雪の含水率の測定
- [2] 日時：1990年2月24日(土) 13:00～17:00
- [3] 場所：新潟県立長岡工業高等学校 物理教室(第3棟3階)
(長岡市幸町2-7-70, 長岡市役所北隣り。駐車可)
- [4] 講師：遠藤八十一(農林省森林総研)、和泉 薫(新潟大学災害研)
五十嵐高志(長岡雪水防災研)、佐藤和秀(長岡高专)
- [5] 実習内容：積雪の層構造と雪質の観察、雪温、密度、積雪相当水量などの測定、雪の含水率の測定
- [6] 申し込み方法：ハガキまたは封書に氏名、所属、会員、非会員、学生の別、連絡先住所および電話番号を記載し、2月10日(土)までに下記へご連絡下さい。定員：20名(先着順)
- [7] 申し込み先：〒940長岡市幸町2-7-70、長岡工業高校 田村盛彰
TEL 0258(35)1976
- [8] 受講経費：テキスト、実験材料等の実費として次の会費をご負担下さい。
会員=2000円、非会員=3000円、学生=1000円
(講習当日に持参下さい)
- [9] 当日に持参するもの：筆記用具(鉛筆)、ノート、定規、電卓、長靴、防寒具

※1 前回の講習会の反省を生かし、受講者自らが実際に計測し、まとめるような講習会をめざします。

※2 講習会終了後、修了証を交付いたします。

(田村幹事 記)

申 込 書

氏 名 _____ (○印 会員 非会員 学生)
 所 属 _____
 連絡先 住 所 _____
 電話番号 _____

平成元年12月16(土)15:00-17:00, 新潟県教職員互助会(けさじろ荘)において, 長岡技術科学大学の塩野谷先生による『スポーツ科学から見たスー雑学』と題した学習会が開催されました。アルペンスキーがいかに激しいスポーツであるかを心拍数や血液成分等の運動生理学的なデータを基に分かり易く説明して戴き, さらにスキー上達の極意を図や身振りを交えて教えて戴きました。年末で参加者は14名と少なかったのですが, 間近に迫ったシーズンを前に大変有意義な学習会となり, 次回は是非スキー場で開催しようということになりました。来シーズンをお楽しみに。(小池 記)

石川地区第2回学習会の報告

平成元年12月16日(土)15:00~17:00, KKR・加賀(金沢共済会館)において学習会が開かれたが, 石川地区は会員数が少ないことと, 当日は土曜日の午後でもあったことなどから参加者は6名と少なかった。しかし内容は, 金沢大学工学部・宇治橋助手による石川県地方の降積雪と融雪現象の特性, 更に, その過程の物理モデルについて大変興味深く話され, 活発なディスカッションもあって有意義な学習会となった。

富山地区第5回学習会の報告

通算5回目の学習会は, 12月20日(水)18時より富山大学理学部で次の二つのテーマについておこなわれました。参加社は15名でした。

- ・「大沢野地区における雪山貯雪実験の経過と今冬の取り組み」

谷井文夫(富山の雪研究会)

- ・「克雪用水による最適消流雪ネットワークシステムの調査」

西島正博(富山県水雪対策室)

雪山貯雪実験では, 雪山をつくりそれにもみがらや泥をかぶせ, 雪のとけ具合を長期にわたって継続的に調べた結果が報告されました。暖冬の中で雪を確保する苦勞や, 風や雨などによって雪のおおいや観測設備がこわれたり, また途中で雪質を調べるためにあけた穴が融雪を促進したりとたいへん苦勞の多い実験だっただけに, 得られた成果やノウハウには貴重なものがあります。

次の消流雪ネットワークシステムは, 富山県が庄川左岸の七市町村を対象に調査したもので, 今後地下水に頼れない現状をふまえ, 河川, 農業用水, 一般排水路, 効率の良い結合によって消流雪水を確保しようというものです。ネットワークを構成するための工事費などを含めた経済性をも考えた調査結果が報告されました。ただ, 水利権を規定する現行の河川法では, 水があっても利用できないという問題があり, このようなシステムづくりのネックになっているとのことでした。

講演会

石川地区第2回講演会の報告

上記学習会開催1週間後の12月23日(土)15:00~17:00、同じ会場において講演会が開かれたが、同じような理由で参加者は8名と少なかった。しかし内容は、金沢大学理学部・河田教授による水と氷の相互の関係やその特性、更に、幾つかのトピックスを含めて大変興味深く話され、同じく活発なディスカッションもあって有意義な学習会となった。なお、県外からは対馬富山大学教授が学習会に引続いて参加され、会を盛り上げていただいたことに厚く御礼申し上げる次第です。(高瀬記)

第1回富山地区講演会の報告

富山市民プラザにおいて1月6日(土)午後1時から2時30分に行われました。今回の講演会は、富山地学会と共催で行った雪に関する「公開講演会とフォーラム」の中の講演の部として行われました。題は次の2題、約50名の参加者がありました。

- ・「スキーはなぜ滑るか」 対馬 勝年(富山大学)
- ・「ヒマラヤの水河」 飯田 肇(黒部市吉田科学館)

スキーの話では、スキーやスケートの摩擦についての現在までのさまざまな学説を紹介しながら、現在でもまだスキーとスケートの摩擦を同時にかつ広い速度の範囲で説明できる説がないこと、富山大学でのこの問題に対するアプローチの仕方、さらに摩擦がないとこの世界はどうなるかなどにふれ興味深い講演でした。

ヒマラヤの話では、つい先月まで現地において調査をしていた時のホットな情報をおりこみながら、氷河の種類や運動の形態やその消長と気候変動などについてふれました。中でも、ヒマラヤの水河がこのところ後退傾向にあることは、氷河と気候の変動のタイムラグを考慮しなければなりません、最近の温暖化との関係で関心がもたれました。また、その中でいくつかの氷河湖の決壊の危険が、この地域の大きな問題となっていることが話されました。

国際会議

国際地球物理金沢会議

標記会議が本年8月21~25日に金沢にて開催されます。詳しくは、『雪氷Vol.51, No.4』311頁参照もしくは、下記までお問い合わせ下さい。

金沢大学工学部(土木) 高瀬信忠教授 TEL.0762-61-2101
支部事務局 長岡技術科学大学 小池俊雄助教授 TEL.0258-46-6000(6124)